

「学校教育の充実のためのホームページ」について

県教育庁教育振興部学習指導課

1 はじめに

県教育委員会では、「学校教育指導の指針」を発展させた「学校教育の充実のためのホームページ」を、令和2年4月から千葉県教育委員会ホームページ上に開設している。

これは、第3期千葉県教育振興基本計画を踏まえ、各学校・園において、重点的に取り組んでいただきたいことを、基本目標4点、施策11点に分けて、簡潔にわかりやすく掲載しているものである。ホームページには、関連する施策や取組等が、すぐに詳細ページにて確認できるようにハイパーリンクを貼っており、これまで以上に活用しやすくなっている。また、ホームページに掲載したことにより、新しい取組が策定されれば年度の途中にも更新できるため、スピード感をもって反映させることができるメリットも兼ね備えている。当面は、4月と10月の年2回の定期更新を軸に据え、必要に応じ随時更新していく。

ここで、このホームページの活用例と具体的な内容構成等について紹介する。

2 ホームページの活用例について

今回開設したホームページは、「第3期千葉県教育振興基本計画」の施策に対して、学校教育での取組をわかりやすく示した。各学校には、「学校教育目標」や「経営方針」、「学校評価」等で活用していただきたい。

また、各学校の課題解決の助けとなることを意識して作成している。主体的な学びの推進や生活指導上の問題解決等、学校の実態に応じて多くの場面で活用していただきたい。

3 具体的な内容構成とその活用について

基本目標1は、学校が取り組むべき内容について、視点を子供に当てて作成しており、施策1～4に分けて掲載している。これからの時代を生きる「ちばの子供を育てる」ために、学校としてどう取り組んだら良いのか、「知」「徳」「体」の各項目に分けて、「生きる力」の育成についてわかりやすくまとめた。「子供の自立」や「社会参加」に向けた能力や可能性を育むために役立てていただきたい。

基本目標2は、教育現場となる学校の在り方について、子供の学びを支える教師の視点から、施策5～7にわたり掲載している。「学校の環境づくり」や「多様なニーズに対応した教育の推進」、「教員の研修や教育力の向上、働き方改革」についての構成となっているため、学校が取り組むべき内容について、あらゆる角度から捉え、学校教育の活性化を目指してほしい。学校の抱えている諸問題の解決のために積極的に活用し、「自信」と「安全」を育む学校づくりを図りたい。

基本目標3は、学校と家庭・地域との連携について、施策8・9として、「子育てを支える家庭教育への支援」や「家庭・地域と学校との協働体制の構築」、「生涯学習の推進」等、すぐに活用できる事例を掲載している。

基本目標4は、グローバル時代を迎え、ちばの子供が「郷土」と「国」を愛する心と世界を舞台に活躍する能力の育成について掲載した。総合的な学習の時間や部活動等に活用していただきたい。

児童虐待の早期発見・早期対応に向けて ～「教職員のための児童虐待対応の手引き」の活用～

県教育庁教育振興部児童生徒課

1 はじめに

千葉県では、平成31年1月に、小学校4年生の児童が、虐待により亡くなるという痛ましい事件が発生した。

そこで、県教育委員会では、このような悲しい事件を二度と繰り返さないため、児童虐待の防止に向けた「児童虐待防止緊急対策」の一つとして、「教職員のための児童虐待対応の手引き」を、令和元年度に改訂し、令和2年度に冊子版を各学校に配付した。

2 「教職員のための児童虐待対応の手引き」の改訂について

本手引きは、平成19年3月に作成された「教職員のための児童虐待対応マニュアル」に、文部科学省作成の「学校・教育委員会等向け虐待対応の手引き」の内容、児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）や千葉県子どもを虐待から守る条例の改正に伴う内容、千葉県の児童虐待死亡事例検証委員会における提言内容を追加するとともに、校内研修資料・事例集を加筆したものである。

3 本編について

本編には、学校における通告の判断のポイント、通告までの流れ、通告後の継続的支援等、児童虐待への対応として教職員がとるべき行動を示している。

また、早期発見のチェックリスト、児童虐待が起こる要因や子供に与える影響、学校や各関係機関の役割等について、児童虐待に関連する法令等も踏まえ解説している。

4 校内研修資料・事例集について

校内研修資料は、各学校等で、児童虐待への対応に関する内容を項目ごとに分け、1項目、20～30分で実施できるよう作成した。そのため、各学校が実態に合わせて研修項目を選択できるようになっている。

また、文部科学省が作成した「学校現場における虐待防止に関する研修教材」を活用した研修資料、県教育委員会が独自に作成した事例集、研修項目ごとに活用できるワークシートも掲載している。

5 おわりに

「教職員のための児童虐待対応の手引き」は、教育庁教育振興部児童生徒課のWebサイトからダウンロード可能となっており、本編、校内研修資料、事例集、ワークシート等を、必要に応じて、各学校や教育委員会の研修等で活用いただきたい。

児童虐待における学校の役割は、早期発見に努め、虐待を疑われる事案を発見した場合は、速やかに関係機関に通告することである。本手引きの活用により、全ての教職員が、児童虐待に対して適切な対応ができるようになることを期待している。

(参考)

○「教職員のための児童虐待対応の手引き」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/jisei/jinkennkyouiku/gyakutaitebiki.html>



不祥事防止対策有識者会議 ～アップデートで不祥事防止～

県教育庁教育振興部教職員課

1 はじめに

不祥事の根絶については、これまでも様々な取組が行われてきた。各学校においても、参加型の校内研修の実施やモラルアップ委員会の活用等、様々な対策を講じているにも関わらず、不祥事が続発している事態は止まず、危機的な状況が続いている。

2 不祥事防止対策有識者会議の開催

このような状況の中で、特に近年、教員による児童生徒へのわいせつ・セクシュアルハラスメント、体罰等の不祥事が後を絶たない実情に鑑み、外部の有識者を招聘し、専門的かつ中立的な立場から助言を受け、より効果的な防止対策を検討するため、令和2年度に不祥事防止対策有識者会議を開催した。

3 不祥事防止対策有識者会議の実際

有識者は、大学教授、精神科医、弁護士等の6名の委員で構成され、4回にわたる会議を開催し、これまでの県教育委員会の取組状況や実際の事例分析等を踏まえて、効果的な防止策について、貴重な意見をいただいた。

4 県教育委員会としての対策

有識者の意見をもとに、県教育委員会としての対策を次のように決定した。

(1)アップデート

不祥事防止に向けたキーワードを「アップデート」とした。

これは、「全ての教職員が、教育に携わったときの初心や基本に立ち返るとともに、不祥事は誰でも起こす可能性があることを自覚

し、絶えず内省し、前例や慣例にとらわれないで時代の変化に適応できるよう、進化し続ける。学校や教育委員会は、そのために必要な環境や体制を整えるとともに、組織風土の見直しにも果敢にチャレンジする。」という意味が込められている。

教職員一人一人の
意識のアップデート



学校の体制の
アップデート

(2)具体的対策

不祥事防止に向けた具体的対策として、大きく以下の5点を提示した。

- ① 被処分者の再発防止の徹底
- ② 研修の強化
- ③ 学校の取組の活性化
- ④ 相談体制の強化
- ⑤ 校内ルールや外部との連携の強化

上記②の取組の一つである「『不祥事防止対策有識者会議』の委員を講師とした研修動画」については、令和3年3月2日（火）に配信を開始した（資料）。今後も、随時、配信する予定である。



（資料）研修動画
「不祥事の根絶に
向けて」

5 おわりに

今後、各学校においても、より強い危機感と当事者意識をもてるような校内研修等の充実を図るとともに、自校から不祥事を決して出さないという決意を、新たにされたい。

令和3年度夏の展示

「うみ鳥つぷ [umi-Trip] ー海鳥とめぐる島の旅・半島の旅ー」

県立中央博物館

様々な海の世界をうまく利用して暮らす海鳥。そんな彼ら・彼女らの目線で、島や半島の魅力を見つける旅に出かけてみませんか？千葉県立中央博物館では令和3年7月3日（土）～9月12日（日）、夏の展示「うみ鳥つぷ [umi-Trip] ー海鳥とめぐる島の旅・半島の旅ー」を開催します。ここでは、本展覧会で伝えたい海鳥と島・半島のストーリー、見どころの一部をご紹介します。

●島と海鳥のかかわり

生涯の多くの時間を海で過ごす海鳥も、卵を産んで雛を育てる繁殖の時ばかりは陸地が必要です。海鳥の多くは小さな島で繁殖します。海に隔てられた島には天敵が少なく、島の周りでは雛を育てるのに十分な餌を捕れるからです。一方、海鳥は島の陸地に海の栄養をもたらします。雛が食べ残した餌や糞によって肥やされた土壌には、植物が芽生え、森が育ち、雨水が蓄えられ、いろいろな動物や人が暮らせる島になります。もし海鳥がいなかったら、多くの島に息づく独特な生態系や人の暮らしも、現在とは異なっていたかもしれません。

●房総半島の多様な環境と海鳥

長い海岸線の房総半島。黒潮が流れる太平洋と穏やかな東京湾、あるいは岩礁と砂浜や干潟とでは、すんでいる魚や貝などが違います。種類によって好みの餌や食べ方が異なる鳥たちは、長い海岸線の中から適した環境を選んで生息しています。房総半島は四方を海で囲まれた島とは違い、三方だけが海に面しています。半島だからこそ存在する多様な環

境が、人間や海鳥を含む多くの海の生き物の命を支えているのです。

●オススメの展示物

本展覧会ではズラリと並んだはく製から、島国らしい日本の海鳥の多様性を感じていただけます。また、ユニークな展示物も登場します。例えば、◆日本では珍しい海鳥（種類は会場に来てのお楽しみ！）の糞。中に詰まったカニの殻が、海の世界連鎖を物語ります。◆100年以上むかしの海鳥の標本。大正～昭和初期に作られたはく製で、日本の鳥類学の発展を支えたとても貴重な資料です。◆最新の研究成果も公開。伊豆諸島の利島で繁殖するオオミズナギドリにGPSを装着したところ、伊豆半島や房総半島沿岸域のほか、はるか北海道沖にまで餌を探しに行くことがわかりました。はく製と骨格標本を使って、長旅に適した体の仕組みを解説します。

この夏は、県立中央博物館で、海鳥とめぐる島の旅・半島の旅をお楽しみください。



▲GPSで記録されたオオミズナギドリの軌跡（複数個体分）
骨格にも長旅が得意な理由が表れている！

令和3年度 中央博物館分館海の博物館収蔵資料展「イカ展」

県立中央博物館分館海の博物館

私たちに非常に馴染み深い「イカ」。近年は漁獲量の減少が騒がれているが、日本人は1年間で1人あたり約1kgのイカを食べており、私たちの食卓には欠かすことのできない食材のひとつである。イカとひとくちに言ってもその種類は多く、日本近海では約140種（世界で約450種）が知られている。

イカは貝類と同じ軟体動物門のうち、頭足（とうそく）類と呼ばれるグループに分類される。頭足類にはイカやタコが含まれ、それぞれ十腕形類と八腕形類に属する。イカの属する十腕形類は、10本の腕（正確には足）を持つが、そのうちの2本は捕食用の伸縮自在な触腕（しよくわん）として区別される。私たちが一般にイメージするイカは、十腕形類のうちコウイカ類とツツイカ類のイカと思ってよいだろう。この2者は英語ではそれぞれ cuttlefish と squid に分けられている。コウイカ類はコウイカやカミナリイカなど体に「甲」を持つ。一方、体が細長く甲を持たないスルメイカやアオリイカなどはツツイカ類に含まれる。

イカは筋肉の塊とも言える外套膜（がいとうまく：筒の部分）の働きによって運動性が極めて高く、外套膜の内側（外套腔）に吸い込んだ海水を頭部の漏斗から勢いよく吹き出して活発に泳ぎ回る。高い運動性を支えるため、イカには通常の心臓の他、1対の鰓（えら）の付け根に一つずつ、計三つの心臓がある。イカは無脊椎動物の中では最も発達した目を持っており、触腕を使って狙いすまして餌を捉える。捉えられた餌は口に運ばれ、鳥の嘴（くちばし）のような顎板（がくばん：

いわゆるカラストンビ）で引きちぎられる。顎板はキチン質で消化されにくく、イカを捕食したクジラの胃の中で分泌物によって結晶化して「龍涎香（りゅうぜんこう）」になるとされる。引きちぎられた餌は、歯舌（しぜつ）と呼ばれるリボン状のヤスリでさらに細かくすりおろされて食道に送られる。

イカの体の大きさは様々である。世界で最も小さなイカは千葉県でも見られるヒメイカで、外套長（外套膜の長さ）がわずか1cm程度である。一方巨大なダイオウイカでは外套長は2m、世界最大のイカと言われるダイオウホウズキイカでは外套長が2.5mにも達する。巨大イカの寿命は明らかではないが、我々が目にするイカの多くは1～2年と考えられている。孵化したての若いイカは1日に体重の30～70%の餌を食べ、1日で体重が8～13%増加するという報告もある。イカは猛烈な勢いで成長し、その短い一生を終えるのである。

中央博物館分館海の博物館では、令和3年7月17日（土）から9月5日（日）まで収蔵資料展「イカ展」を開催する。展示ではイカの興味深い生態を解説しながら、ダイオウイカの大人と子供のペア、神秘的なユウレイイカ、変わった姿のトックリイカなど、海の博物館のとおきおきの収蔵品を紹介する。



世界一小さなヒメイカ

『千葉教育』編集部からのお知らせ

県総合教育センター総務課『千葉教育』編集部

『千葉教育』のアンケートにお答えください。

毎号、『千葉教育』をお読みいただき、ありがとうございます。

『千葉教育』の内容をより充実させるために、皆様の御意見、御要望をお聞きする読者アンケートを毎号実施しています。

良かった記事、良かった理由、今後取り上げてほしいテーマなどをお尋ねしています。毎号、裏表紙にアンケートにアクセスするためのQRコードを掲載してありますので、そこからお入りください。読者の皆様のご意見が『千葉教育』をよりよいものに育てます。よろしくお願いいたします。右は、3月に発行した「桜号」の読者アンケート用のQRコードです。本号と併せてお答えいただけると幸いです。

千葉教育
桜号 読者アンケート



『千葉教育』は、千葉県文書館で販売しています。

「『千葉教育』を入手したいのだが、販売しているのか。」という問い合わせをいただくことがあります。『千葉教育』は、千葉県文書館において販売しております。ただし、平成28年度以降に出版されたものに限り、冊数に限りがあります。お買い求めの際は、事前に文書館に在庫の有無や価格をお問い合わせください。令和3年度発行分の予定価格は1冊100円です。

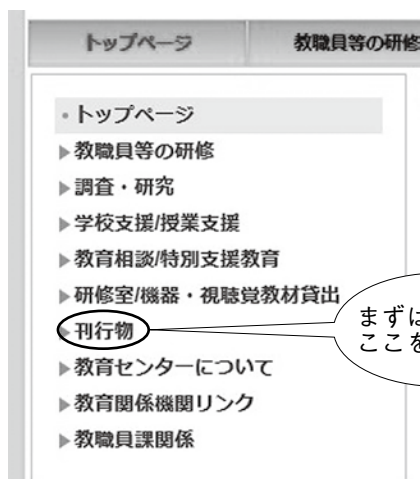
(連絡先) 千葉県文書館行政資料室 住所：〒260-0013 千葉市中央区中央4-15-7

電話：043-223-2658

『千葉教育』の掲載記事は、ダウンロードすることができます。

『千葉教育』の記事は、県総合教育センターのWebページからダウンロードすることができます。

ただし、平成28年度(2016年度)蓮号分からです。ぜひご活用ください。(著作者の同意を得ております。)



県総合教育センターのトップページより抜粋